

▲企画展 7月14日(土)~9月2日(日)

# 「夏休み ズッコケ三人組ワールド ハチベエ・ハカセ・モーちゃんがやってきた！」



世代を超えて愛されている児童文学の名作「ズッコケ三人組」シリーズを紹介する企画展「夏休みズッコケ三人組ワールド」を開催しました。

「ズッコケ三人組」全五〇作を一堂に集めて展示。三人組のプロフィールや作品の歴史を紹介し、作者の那須正幹さんの自筆原稿や前川かずおさんによる挿絵原画も展示しました。また、那須さんの主な著作約一五

〇点を集め、その作家像にも迫りました。

会場では那須さんへのメッセージカードが入場者から寄せられました。「学校の図書室でよみました。全巻よみたいです」、「子どものころに読みました。今は我が子と読んでいます。親子でズッコケファンです」など四五〇点にもなりました。

展示資料約二五〇点  
入場者数四二二人(イベントも含む)

お話し会  
「ズッコケ先生、那須正幹さんと話そう」  
8月4日(土)

作者の那須さんによるお話し会を開催しました。親子連れや児童文学関係者などが集まり、会場からの質問に、「ズッコケ三人組」の執筆秘話、作家の生活、育児など、ユーモアを交えてお話しくださいました。

「ぼくはハチベエが好きですが、先生は誰が好きですか」という質問には、「三人の少年にはモデルがいる。ハチベエは、書道塾をしていたときの生徒。モーちゃんは、中学校時代の同級生。ハカセは、那須正幹の少年時代をモデルにしている。ハ



カセと同じようにぼくもトイレで本を読むのが癖。自宅のトイレには本棚がある。ということ。で、那須正幹は自分がモデルのハカセが好き。ハチベエがお話の中では目立っているが、一番の最後のおいしいところはハカセが持つていく。君もハカセを好きになりなさい(笑)。

「那須先生の本を読んで小説家になりたいと思って勉強しています。キャラクターづくりはどうしていますか」という熱心な質問には、「登場人物のプロフィールをかなり詳しくつくる。主人公だけでなく登場人物も。最初はイメージがわからないけれど、書いていくうちに主人公が頭の中で勝手に動き出すようになってくる。そうなるとう主人公の跡を追うように書けばいいのである。私の場合は、最初に作品の舞台になる地図もつくります」。

また、「ズッコケでは、ハチベエ・ハカセ・モーちゃんを一度もアジア太平洋戦争にタイムスリップさせていない。最初は無意識だったけど途中からは意識して三人に戦争中の日本を体験させたくないなあと思った。

### 来館者の声

◆ ファンタジー好きです。なんでもできるハチベエたちすこいな。(小学三年)

◆ わたしは、「ゆめのズッコケ」しゅうがく旅行を読んでしゅうがく旅行が楽しみになってきました。しゅうがく旅行にはやく行って思い出をつくりたいです。(小学二年)

◆ 「ズッコケ三人組」が大好きです。特にハチベエが大好きです。これからも楽しい作品をかきつけてください。(小学六年)

◆ 那須さん、いままでおつかれさまでした。僕はいままで本は嫌いでした。でもこの本を読んで本はおもしろいと思いました。これからもズッコケだけでなくいろいろな本で世界中の人を幸せにしてください。(中学一年)

◆ 小学生の子どもと夫と来ました。家族で楽しむことができて共通の話題が増えてとてもよかったです。那須先生の世代を超えた長年の活躍のおかげです。(三十代女性)

◆ ズッコケ三人組を通してそこに語られない先生の平和に対する思いが伝わってきました。(三十代女性)